

ピロリ菌について:

2013年 3月 福山市民病院 山陽病院 内科 辰川 匡史

胃腸の病気の代表は胃潰瘍や十二指腸潰瘍ですが、これらの病気は従来、ストレスや喫煙などが原因とされてきました。しかし、近年潰瘍の原因として、細菌が関わっていることが明らかになっています。

ピロリ菌 (*Helicobacter Pylori*)

ピロリ菌は 1983 年と最近発見された菌で、胃の中に住んでいるのが特徴です。(胃には強い酸があるのでふつうの菌は住み着くことができません)。ピロリ菌が胃の中に居る方は、居ない人 비해潰瘍になりやすいとされています。また、最近ではピロリ菌が胃にいる人は胃癌にもなりやすいということがわかってきました。



除菌治療

除菌治療はピロリ菌を体の中から除去する治療です。一週間、朝、夕の一日2回 (一回に 6 錠)内服薬を飲みます。薬は 3 種類、一回 6 錠あります。



- ・ タケプロン・パリエット・ネキシウムなど:胃潰瘍に使われる、胃酸を抑える薬です。除菌治療中は通常量の二倍服用します。
- ・ クラリスロマイシン:細菌を殺す薬、いわゆる抗生物質です。
- ・ アモキシシリン :これも、抗生物質です。

除菌の成功率は平均すると 80%です。

除菌治療の注意点:

- ・のみ忘れないこと! (除菌の成功率が下がるため)
- ・喫煙に注意! 除菌中の喫煙は成功率が下がります。

除菌治療の副作用:

下痢:ピロリ菌の除菌治療には抗生物質が含まれますが、これらは腸内にいるビフィズス菌や乳酸菌などにも作用し、下痢を起こします。除菌治療で最もよくみられる症状です(10-15%)。除菌治療が終わると自然に軽快する場合はほとんどですが、まれに、ひどい下痢、中には便に血が混じる(下血)ことがあります。このような時はすぐ服用を止め、受診してください。

口内炎・味覚異常(食べ物の味が普段と違うと感じる)もしばしば生じます
また、薬に対するアレルギーのある方に発疹・かゆみなどの皮膚症状が生じることがあります。その他、まれな副作用として 難聴、耳鳴、めまいがあります。

除菌後は:

除菌治療後、除菌の成功・失敗にかかわらずピロリ菌は胃の中から一旦は消失します。しかし除菌が失敗している場合、二、三ヶ月してから再びピロリ菌が出現してきます。したがって、本当にピロリ菌が胃から排除されたかどうかは時期をおいて確認しなければいけません。

除菌後ピロリ菌の確認には以下の方法があります。

UBT	ピロリ菌だけが出すガスが呼気に含まれているかどうかで、胃の中にピロリ菌がいるかどうかを確認する検査です。 検査の朝は絶食していただく必要がありますが、試薬を飲み、容器に息を吹き込むだけで終わります。 患者さんにとって簡便です。(検査時間は20分ほど)
便中抗原	便を採取し、便の中にピロリ菌の菌体が含まれているかどうかを調べる方法です。
胃カメラ	胃カメラを行い、胃の粘膜の一部を採取してピロリ菌の有無を確かめます。(組織検査、もしくはウレアーゼ試験) 胃カメラはここに挙げた方法の中では最も手間のかかる方法ですが、ピロリ菌の有無だけではなく、胃潰瘍や早期胃癌の病変の経過を評価することができます。 胃潰瘍や十二指腸潰瘍の場合、潰瘍が新鮮な時は悪性かどうか判断に苦しむ場合があります。時間をおいて、傷が治ってはじめて悪性がはっきりすることもありますので(癌の場合、潰瘍の薬では傷は完治しないため)、治療後の病変を確認する必要があります。

もし除菌が成功した場合、胃潰瘍/十二指腸潰瘍の再発率は非常に低くなったと考えてよいと思います。潰瘍の薬は中止したり、ごく弱いものに変更してもよいでしょう。

ただし、頭痛や腰痛などに用いる解熱鎮痛剤を常用する場合はご注意ください。

しかし逆流性食道炎(胸焼けや胃もたれが主な症状)には、ピロリ菌除菌はあまり効果がないので、これらの症状が続く場合は薬を続けたほうがよい場合もあります。

除菌が失敗した場合、薬の組み合わせを変えた別の方法を試すことができます(二次除菌)。

中にはなかなか除菌できない難治性の方もおられますが、その場合は潰瘍の薬を飲み続ける必要があると思います。